

U.S. Indicators

米国 米製造業の好調を示す高水準（17年11月 I S M製造業景気指数）

：2017年12月12日（火）

～受注・生産の拡大ペース加速を示唆～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

I S M製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
16/11	53.5	54.8	55.6	52.5	49.0	55.5	49.0	54.5	52.0	50.5
16/12	54.5	60.3	59.4	52.8	47.0	53.0	49.0	65.5	56.0	50.5
17/01	56.0	60.4	61.4	56.1	48.5	53.6	49.5	69.0	54.5	50.0
17/02	57.7	65.1	62.9	54.2	51.5	54.8	57.0	68.0	55.0	54.0
17/03	57.2	64.5	57.6	58.9	49.0	55.9	57.5	70.5	59.0	53.5
17/04	54.8	57.5	58.6	52.0	51.0	55.1	57.0	68.5	59.5	55.5
17/05	54.9	59.5	57.1	53.5	51.5	53.1	55.0	60.5	57.5	53.5
17/06	57.8	63.5	62.4	57.2	49.0	57.0	57.0	55.0	59.5	54.0
17/07	56.3	60.4	60.6	55.2	50.0	55.4	55.0	62.0	57.5	56.0
17/08	58.8	60.3	61.0	59.9	55.5	57.1	57.5	62.0	55.5	54.5
17/09	60.8	64.6	62.2	60.3	52.5	64.4	58.0	71.5	57.0	54.0
17/10	58.7	63.4	61.0	59.8	48.0	61.4	55.0	68.5	56.5	54.0
17/11	58.2	64.0	63.9	59.7	47.0	56.5	55.0	65.5	56.0	54.5

（出所）I S M：the Institute for Supply Management

製造業景気指数は58.7 と前月比0.5%ポイント 低下

17年11月のI S M製造業景気指数（季節調整値）は、58.2と前月比▲0.5%ポイント低下したものの高い水準を維持しており、製造業部門の好調持続を示している。ドル高の影響を受けながらも、国内需要の堅調さ、原油価格の上昇による石油掘削リグの稼働数の増加（ボトムからの水準切り上げ）、世界的な需要の拡大等を背景に、米国製造業活動は活発化している。

総合指数を構成する項目では、雇用、入荷遅延、在庫が低下したものの、重要な新規受注、生産が上昇した。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、入荷遅延（前月比▲0.98%p）、在庫（前月比▲0.20%p）、雇用（前月比▲0.02%p）が押し下げ寄与となった一方、生産（前月比+0.58%p）、新規受注（前月比+0.12%p）が押し上げ寄与となった。また、新規受注が内外需の堅調さを映じて高い水準で推移しており、製造業部門が良好な状態を当面維持することを示唆しているほか、新規受注、生産が高い水準を保つなかで、雇用も高水準を維持している。さらに、需要が強いなかでの在庫の減少は、先行きの受注拡大を示唆している。以上より、ヘッドラインの数字以上に良い内容だったと判断される。

インフレ面では、サプライチェーンの問題で一時的に高い水準に上昇した入荷遅延の低下により仕入価格は低下したものの、新規受注、生産の拡大、在庫の縮小などを背景に仕入価格は高い水準を維持しており、川上でのインフレ圧力が強まっている。

全18業種中14業種が 拡大した

総合（全18業種、下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す）で拡大した業種は、紙製品、一般機械、輸送機器、コンピューター・電子機器、非鉄、プラスチック・ゴム、印刷・関連サポート活動、食品・飲料・タバコ、電気設備・部品、化学製品、家

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

具・同関連、加工金属、その他製造業、一次金属の14業種となった。前月の16業種から減少したが、多くの業種で拡大しており、製造業は広がりを持って拡大している。また、アパレル、繊維は前月から変わらず。縮小した業種数は、木材製品、石油・石炭の2業種（前月ゼロ業種）となった。

コンタクト先からの報告は、良好な経済情勢を指摘するものばかり

コンタクト先からの報告は、11月も前向き内容が目立った。化学製品では、今後6～12ヶ月間、さらに多くの注文を見続けると指摘されたほか、一般機械では、第3四半期および第4四半期の好調な売り上げ、受注残高の増加、サプライヤーの供給能力の逼迫が報告された。また、コンピュータ・電子製品では、事業は平準化したが、年末に向けて強いままであると報告、その他製造業では、過去最高の売上高を達成したばかりであるうえ、18年に堅調な活動が継続すると予想されると指摘された。

さらに、加工金属では、年末に向けて安定、一貫した需要を見ている。通常減速するが、まだ減速していないと報告された。輸送機器では、全般的な産業需要は依然として強く、引き続き健全な受注を維持しており、地域経済もかなり労働市場の逼迫を伴って強くなっていると指摘された。食品・飲料・タバコでは、ビジネスは強く、雇用は逼迫しており、サプライヤーの納期は長くなっていると報告。非鉄では、強い季節的な製品需要と稼働時間の拡大を続けたと指摘された。プラスチック・ゴム製品では、現在、Q4の終わりに向けての典型的な季節的減速を経験しておらず、米国経済には多くの楽観があるかもしれないと報告された。

製造業景気指数は当面高い水準を維持する公算

今後もドル高や中国経済の減速など需要の伸びを抑制する要因が残存するも、雇用・所得の増加や資産価格の上昇等による個人消費の拡大や、企業業績の改善などに伴う設備投資の増加を背景に、米景気の堅調さが持続するとみられ、ISM製造業景気指数は、当面高い水準を維持すると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。